

4 防災訓練で繰り返し覚えよう

「災害は忘れた頃にやってくる」といわれるように、いつ、どこで発生するか予測できません。実際に災害に直面した時、とっさに適切な行動をとることは、難しいものです。

突然災害に襲われても、落ち着いて行動できるように、日頃からくりかえし訓練を行い、防災活動に必要な技術を身をもって覚えることが大切です。

正しい技術の習得には、専門のノウハウをもっている消防署の指導を受けたり、地域の防災訓練に積極的に参加することが必要です。

また、実際に訓練に参加することで、これまでの防災計画の問題点も発見されます。そうした課題は、随時、自主防災組織の参加者みんなで話し合い、見直していきましょう。

防災訓練は、自主防災組織単位で行う「個別訓練」と県や市町村など行政区単位で行われる「総合訓練」に分けられます。

①個別訓練の目的

少人数で行われる個別訓練の最大の目的は、参加者自身が実際に行動し体験することにあります。消火器をはじめとした防災資機材は、実際に使ってみることが重要です。こうした経験を積むことで、いざという時落ち着いた行動をとれるようになります。見学人にならず、積極的に参加しましょう。

②総合訓練の目的

防災関係機関や民間協力団体、そして地域住民が一体となって行う総合訓練では、各組織がお互いに連携をとりあい、それぞれが効果的に防災活動できるように訓練します。

総合的かつ連携のとれた訓練を行うことによって、防災体制の一層の充実・強化が図れます。

●情報収集伝達訓練

地域内の被災状況や災害危険箇所の巡視結果、避難状況などの情報を早く集められること、及び防災関係機関の指示を正しく地域内の住民に伝えられることをチェックします。



●消火訓練

消火器、バケツ、可搬式動力ポンプなどの消火用資機材の使用方法や、消火技術を習熟します。同時に、火災から身を守る方法も学びます。



これだけは知っておきたい

●消火器の使い方●

消火器には、いろいろな種類と型があります。操作は簡単ですが、使い方を知らないと「いざ!」というときの消火に役立ちません。消火器の使い方を身につけておきましょう。



1.まず安全ピンを上に取り抜きます。

2.ホースを本体からはずし、火元へむけます。

3.レバーを強くにぎると消火剤が噴出します。



※ここがポイント!

消火器を使うときは、必ず避難口を背にし、危険を感じたらすぐ避難しましょう

●救出・救護訓練

はしご、ロープ、バールなど救出用資機材の使用方を学び、家屋が倒れたり、落下物にあたってけがをした人の救護活動や、応急手当の方法を身につけます。



●避難訓練

避難の要領を学び、指定された避難場所まで早く安全に避難できるようにします。

あわせて、個人レベルでの避難時の携行品や服装をチェックします。



●給食・給水訓練

炊き出しのほか、鍋、ろ水器など限られた資機材を使って、食料や水を確保する方法、技術を学びます。また、食料、飲料水を各人に効率よく配分する方法も訓練します。



●愛媛県総合防災訓練のスナップ●

愛媛県では、毎年、防災の日である9月1日に総合防災訓練を実施しています。



▲平成13年度は南宇和郡城辺町僧都川河川敷で実施



▲被災したビルから負傷者を搬出する訓練



▲防災ヘリコプターでの救助訓練



▲緊急物資をスムーズに運び出す様子



▲水害に備えてチームワークよく土のうを設置